

おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー部報第 14 号 (7 月 24 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

新チーム山形中央B戦で初白星飾る

7 月 21 日 (日) Y2B 第 9 節山形中央 B 戦が山形明正 G で行われました。山東は前節山商戦で新チームが始動し、負けはしましたが今後に期待させました。今節の相手は山形中央 B。相手は B チームであり、いくらこちらが新チームといえども負けたくはない。しかも、山形中央 B の先発を見ると 10 人が 1、2 年生。すなわち、ほぼ新チームと言っている。おまけに、1、2 年生の主力は A の方に召集されており、山形中央の新人チームのベストメンバーという訳でもない。そういうチームに A チームの山東は負けてはならない。そんな思いは選手にあえて強調しませんでした、選手に共有されていたと信じたい。山形中央 B (以下中央と略記) はさすが強豪チームの B とあって、リーグ前期でも強敵鶴南を相手に大量得点で勝つなど、力を見せつけました。前期における山東との戦いでは、山東が苦しみながらエイジの「慎重に振られた左足インサイドボレー」にて辛勝している。が、双方ともメンバーが変わっており、後期の戦いではどうなるかわからない。場所は Y2B の聖地山形明正 G¹。清野 OB 会会長、後藤報道局長、佐竹校長がいつも通り応援にいらっしゃる。また、3 年生の保護者を含む多数の保護者もいらっしゃって下さる。あとは選手が頑張るだけ。

前節でカズマが負傷したため、ただでさえ薄い選手層が更に薄くなりましたが、今節は前節まで怪我のため出場を見合わせていた 2 年サッチモがなんとか間に合うことに。そして、前節のヒーロー? 1 年団長もスタメンに名を連ねる。さあ、キックオフ。守備的戦いをめざした訳ではないのですが、山東押され気味の試合の入り。山東 DF がマーク (している選手) を自由にさせまいと喰いつく、それにより空いたスペースに中央の他の選手が入る、中央の中盤は前線の動きをよく観てパスを繰り出す・・・そういうプレーが連続する序盤。攻める中央、守る山東といったところ。ただし、守る山東と言っても、戦術上そのようなプレーになっているだけで、前節の後半のように崩されて後退を余儀なくされて守勢に回っている、という訳ではない。そこそこ最終的な守備は安定していると思っていた矢先の前半 5 分、左 MF サッチモがクリアでまごつき、それを背後から寄せてきた相手にかっさらわれ、あえなく失点。一見 GK とサッチモとの関係ミスとも見えました²ので、GK に対して温か

¹ 山形明正は Y2B でも調子を上げており、今年残留し来年も Y2 の聖地として存在感を発揮することを望んでいる関係者が多数いることでしょう。

² GK の指示が「クリア」ではなく「キーパー (が捕るから FP は触るな)」だったとするならば、サッチモのまごつきは理解できる。とはいえ、GK の指示も完璧ではないのだから、相手が寄せてくるのを感じたら (シチュエーション的に背後にも気を配り、感じなければならぬ!)、自分で判断しクリアしな

くも厳しい視線を投げかけている齋藤 GK コーチが、「なんだよ〜」とベンチで落胆。今野は、「サッチモだから仕方ない、あいつはああいう（プレーの遅い）プレーヤーだから」と大きな声を上げる気にもならない。ハーフタイムに聞けば、GK サブローからの指示は「クリア」だったようで、だったらなおさら、あのまごつきは理解できない。判断のミスとも言えますが、常々サッチモは「蹴ることを決めてから実際に蹴るまで」に時間がかかり過ぎている。「トラップしてから実際に蹴るまで」と言い換えても良い。私の見るところ、**ワンステップでロングキックができない技術的問題**が大きい。よく小学生とかがロングキックをする際、ステップを複数回踏まないと（キックの）立ち足（のタイミング）を合わせられなかったりしますが、極端な話、サッチモは小学生と同じ課題を抱えている。ゆえに、ワンステップですぐ蹴ることが求められるシーンでも、そういうプレーが選択肢に入って来ない。**判断の問題というより技術の問題**。しかし、崩されたわけではなかったし、時間も早かったので、比較的山東の選手の切り替えはできていたような。失点したことで踏ん切りがついたか、本日初めて試すシステムを CDF タツルの判断で早くも改め、使い慣れたシステムへ変更。それまで、中央の攻撃をいったん受けて中央の押し上げを許しつつ、それによりできた中央 DF の裏のスペースをムンタリが度々突いてチャンスを作っていました。が、システム変更が功を奏したからかどうかわかりませんが、前半のうちに山東のカウンターが形となる！前半 22 分、**サッチモのスルーパス³で左サイドを抜け出したムンタリ**が、冷静に逆のサイドネットに流し込み、山東同点。カウンターからチャンスは作れていたのに焦ってはいませんが、やはり得点という結果が出るとホッとします。そして、その後は一進一退ながら山東の時間の方が長かったか。**ムンタリは（一発の力は持っているものの）普段トラップ・パスが雑でボールロストが多いのですが、この日はポストプレーでも安定感があり、成長を感じさせる**。その分もう一人の 2 年 FW タイチがもっと積極的にプレーしてくれたらな〜と思ひ、ベンチで観ていましたら、前半 35 分、**ゴール目の前で相手をブロックしつつ CK のこぼれ球を豪快に蹴り込み、山東逆転に成功！！ 逆転はやはりうれしいし、何よりタイチの得点というのがうれしい⁴**。逆転で前半折り返す。

後半も一進一退。ただし、中央が低い位置でのビルドアップにおいて山東のプレスにひっかけるシーンが多く、山東が中央サイドで攻める、または中央が中央サイドでパス交換する時間が長い分、「分厚く攻める中央、カウンターで切り返す山東」という前半のような試合の構図ではない。**中央が、ダイレクトに相手ゴールに迫るよりは丁寧にショートパスを重ねボールを保持し続けながら試合を進めるという理想を、特に追い求めているように見える後半。その分山東としては長い時間山東ゴールと遠いところでの攻防が続く故ありがたい**。そんな中、勇敢にも相手の前に入ってヘディングしたタイチの顔が相手の頭と接触し、目尻を深く切ってしまい、試合が一時中断。ドクターでもある新保護者会長武田さんがなかなか立ち上がれないタイチの窮状を見かねて急遽ピッチに入り応急処置。タイチはそのまま病院直行となりました。先週のカズマに引き続き、またしても運悪く負傷退場者を出す山東。そして、タイチがピッチ外で治療を受けている最中、**山東ボランチが相手ボランチを簡単に自由にさせてしまい、山東 CDF がワンツーで簡単に裏を取られてしまい、もう一人の CDF の**

ければならないはず。

³ あまり記憶にありませんが、HP で確認するに、サッチモさんのパスだったようです。

⁴ 要はムンタリの得点でもうれしいが、そればかりだとムンタリ依存症のチームになってしまう。他の選手、特にもう一人の FW の得点がチームの今後を考えた時に必要であったということ。

カバーも遅く、中央FWに豪快なシュートを打たれて、同点となる。幾重にも甘いプレーが重なっての、悪い形での失点。やはり簡単にうまくは行かない新人チーム。しかし、**この日はやはりサッチモ day** だったのでしょう、2対2で同点の時点で2アシスト⁵を決めているサッチモが、爆発しました!!! 右サイドを抜け出しつつ、逆サイドでフリーの左MFサッチモをよく観ていたボランカツミがサッチモにすばらしいセンターリングを送る。すると走り込んだサッチモが、さも何でもないかのように落ち着き払って浮いたボールに近づき右足を振り抜く。それが、逆のサイドネットに突き刺さるビューティフルボレーシュートとなり、山東再度の勝ち越し。サッチモ、入部以来最高のプレーをしました。私が選手であれば、センターリングの浮き球をボレーで打つより、(相手のいない)左にトラップしてもっと慎重にシュートを打ったでしようが、思い切りがよい、しかも非常に落ち着いたボレーシュートに感激。普段の基礎(と呼ばれる練習)におけるボレーの練習の成果が出たと言っただけでよいでしょう。その後は、**2年きっての頭脳派で「好きなポジションは審判」のタローを投入**し、逃げ切りを図る山東。しかし、勝ち越してから受けに回ってしまい、相手の厚い攻めを許し最後までハラハラドキドキさせる。CDFに軽率なプレーが出るなど、(アディショナルタイムに勝ち越し点を献上してしまった)前前節の山商戦を思い起こさせる展開になりかけましたが、何とか主審の笛をそのまま聞くことができ、待望の新チーム初勝利を上げる。

何と言っても、1ゴール2アシストのサッチモさんがMOM (Man of the Match) でしょう。しかし、既述の通り、そのサッチモはプレー面で大きな課題を抱えているし、ボランチの守備での貢献度の低さ(ヘディングの競り合いの弱さを含め)も気にかかる。ともかく、**勝つには勝ったが、反省点は多い**試合でした。**途中出場の1年ユウトは、好パスでチャンスを作り出し印象的**でした。でも、自分でボールを運ぶ、シュートを打つ怖さがあるからこそ生きるのがパスという選択肢なので、ユウトはトラップ、ドリブル、シュートなど、個人練習をもっと積まなければならない。

ただ、**勝利という成功体験が成長には絶対に必要であり、その意味でこの勝利は今後につながる**⁶。しかも、逆転勝利だし、再度の勝ち越しによる勝利だったし、試合を諦めない気持ちを養う上でも大きな勝利でした。

応援ありがとうございました。次節も応援よろしくお願いします。

7月27日(日) Y2B 第10節 東海大山形B戦 9:00~ @山形明正G

⁵ もちろん、中央の一点目と山東の一点目のアシストです。

⁶ 逆に、**敗北が成長につながるとは限りません**。敗北が成長に直結するなら、敗北を重ねるチームの方が成長するでしようが、勝負の世界をよく観察するに、勝者が勝つたびに成長し続けるというのが世の理のようです。ただ、**必ず訪れる負けを糧にすることができれば、敗北すら成長につなげることができるはずで、常勝に至るにはその過程も不可欠なのでしょう**。ともかくも、よく言われる「負けを糧にする」という言葉は、何もしなくても、ただ負けただけで糧になるわけではない、敗北後の行動により糧にしなければならない、と解すべきでしょう。

震災復興奉仕活動に参加してきました

山形中央 B との県リーグの前日 7 月 20 日（日）、日本青年会議所を母体とする国際協力支援組織「NPO 法人国境なき奉仕団（BRA）チーム山形」の「東日本大震災復興支援団」の団長**遠藤正明さん（遠藤物産）**にコーディネートしていただき、そして、今年 3 月山東を卒業した OG のお父様でもある**岡崎明さん（タカミヤホテルグループ）**にバスを運転していただき、**宮城県石巻市へ震災復興支援の奉仕活動に行ってお参りました**。山東が夏休みに復興支援活動に参加するようになって今年で 3 年目、御二方には 3 年連続でお世話になりました。2012 年には市内の海側で草むしりとドブさらい、2013 年には石巻市の中でも牡鹿半島に足を伸ばし各種奉仕活動（主に仮設住宅の草むしりと漁業支援活動）に参加しました。**どうしても「他の人のためにやっている」と思うと、ついつい「してやってる（やってやてる）」という傲慢な気持ちが芽生えるため、部員には「自分の人生修業のために参加するんだぞ」と念押しして臨んだ**昨年の奉仕活動。しかし、昨年などは結果的に被災地の方々に大変感謝され、自分のために行った活動で感謝され、嬉しい清々しい気持ちになりました。

今年も、結果的に被災地の方々に喜ばれる活動をめざし、謙虚に活動するよう呼びかけました。出発は早朝 6 時。早い出発ですが、蔵王からバスを引っ張って来て下さる岡崎さんのような方もおり、早いなど言ってもらえない。石巻市の谷川浜に到着すると、数グループに分かれ、異なる場所で漁業支援活動に従事。私が選手 3 名と行った場所では、降雨の影響で（貝類の養殖のために必要な）貝殻の作業ができず、代わりに、塩蔵ワカメの袋詰め作業を行いました。まず、袋にシールを貼ることから始め、次にワカメを 340 g ずつ計り、それを袋に入れていく作業。計る役と袋に入れる役とを交換しながら、段ボール 5 つ分のワカメを商品の形にしました。また、作業の傍ら、作業でお世話になった現地の漁師の方から震災当日の話やその後のお話をお聞きしました。個人的には、**その方が「震災で悲しい思いもいっぱいしたけど、その分、復興活動の過程で、たくさん感動ももらった」という思いを吐露されていたのが一番印象的**でありました。お昼には、そのワカメと焼いたアナゴを御馳走になりました。美味しかったな～としか感想は言えませんが、「3 月だと生のワカメが食べられる、生はもっともっと美味しいよ～」と話をされ、不純にも食目当ての奉仕活動を考えてしまいました。他のグループでは、生牡蠣を頂いたり、蒸ホヤを頂いたり、お菓子を頂いたりしたそうです。ともかく、**各グループ（ご褒美をいただくほど）よく働いたようで、皆さまから感謝の言葉をいただきました**。

帰りは、被災地にお地藏さまを建てるプロジェクト⁷の第一号として石巻市に建てられたお地藏さまのところで黙祷を捧げ、山形への帰路につきました。最後に**遠藤さんが、「（震災を、被災地の方々を）忘れないことが復興支援だと思ふ」と仰っておりました**が、本当にその通りだと感じました。現地の方からも、（建設業者など一部の者を除き）生活はまだまだ元に戻っていないとお聞きしましたし、今年も行っておりませんが仮設住宅はまだあります。山東サッカー部も、部員の人生修業の一環としてではありますが、**忘れずに参加していきたいと改めて感じました**。

現地の方、遠藤さん、岡崎さん、本当にありがとうございました。

⁷ 遠藤さんにお話によると、呼びかけ人は七日町の長源寺のお坊さんだそうです。